

第二十七回
帝國議會 商法中改正法律案外一件兩院協議會議事速記録第一回

明治四十四年三月二十一日(火曜日)午前十時三十分開議

貴族院協議委員

議長 男爵 波多野敬直君
副議長 男爵 富井政章君

伯爵 廣澤金次郎君
子爵 加納久宜君

男爵 久保田讓君
男爵 目賀田種太郎君

男爵 穗積八束君
岡野敬次郎君

衆議院協議委員

議長 鳩山和夫君
副議長 長島鷲太郎君

元田肇君
鵜澤總明君

小川平吉君
松田源治君

片岡直温君
守屋此助君

森井肇君
花井卓藏君

(抽籤ニ依リ男爵波多野敬直君議長席ニ著ク)

○議長(男爵波多野敬直君) 商法改正案ニ付テ是ヨリ協議會ヲ開キマス

○法學博士富井政章君 ソレデハ簡單ニ不同意ノ理由ヲ述ベマス、衆議院ハ本案ニ付テ多ク修正ヲ加ヘラレマシタガ、其修正ノ中デ吾々ニ於テ強テ反對意見ヲ固執スルマデノ必要ヲ認メナイモノモアリマス、又ドウ考ヘマシテモ御同意致シ兼ネル點モアリマス、ソレハ甚ダ遺憾ニ存スルトコロデアリマス、今修正ノ各條項ニ付テ意見ヲ述ベマスコトハ、正當ノ方法デアルトハ思ヒマスケレドモ、雙方ノ論旨ハ既ニ兩院ノ本會ニ於テ並ニ委員會ノ速記録等ニ依ッテ大抵分ッテ居ルコト、思ヒマス、故ニソレハ省略スルコトニ致シマシテ、唯ニ二ノ點ニ付テ一言致シタイト思ヒマス、例ヘバ株式會社ノ財産目録殊ニ利益配當ノ制限ニ關スル規定ヲ削除セラレタノデアリマスガ、是ハ貴族院ニ於キマシテハ此規定ハ會社ノ基礎ヲ鞏固ニスルガためニ極メテ必要ナルモノト考ヘテ居ルノデアリマス、即チ營業ヨリ生ジタル確實ナル利益ヲ配當セシメナイト云フコトニシタイノデアリマス

シテ、此點ニハ大ニ重キヲ置イテアルノデアリマス、次ハ會社重役等ノ犯罪ニ對スル罰則デアリマスガ、是モ刑法ノ規定アルノミデハ甚ダ不十分デアリマシテ、彼ノ預合相場收賄等ノ行爲ハ、多ク罰セラレナイト云フコトニナルノデアリマス、我經濟界ノ現狀竝ニ外國ノ立法例等ニ考ヘマシテ、是等ノ刑罰規定ハ甚ダ必要ト考ヘルノデアリマス、唯ニ第二百六十一條ノ如キハ少シ書方ガ廣過ギルカト思ハレル嫌ハアリマス、ソレ故ニ何程カ罰則適用ノ範圍ヲ狹クスルカ、或ハ刑ヲ輕クスルカ云フコトデアレバ、或ハ考ヘテ見ルコトガ出來マセウカト思フノデアリマスケレドモ、全部削除ト云フコトニハ到底同意ヲ致シ兼ネルノデアリマス、ソレカラ三百二十七條ニ一項ヲ加ヘラレマシテ、運送取扱人ガ運送人ト同様ニ、貨物引換證ヲ發行スルコトヲ得ルトセラレタノデアリマスガ、是モ吾々ノ考ヘマスルトコロトハ、大ニ違フノデアリマシテ、吾々ノ考デハ貨物引換證ノ如キ一般ノ人ニ對シテ重大ナル效力ヲ生ズルトコロノ證券ハ、運送人以外ノ者ニ於テ之ヲ交付スルコトガ出來ルト云フコトハ、甚ダ弊害アルコト、信ズルノデアリマス、實ハ或方面ヨリ出マシタ意見書ニ依レバ、鐵道ガ國有トナッテ以來總テノコトガ御役所的ニナッテ、鐵道デハ貨物引換證ヲ出サナイカラ貨物取扱人ガ出セルヤウニシテ欲シイト云フコトガ書イデアリマシタ、故ニ貴族院ノ委員會ニ於テハ鐵道ノ當局者、即チ總務局長ノ出席ヲ求メマシテ其實況ヲ質シマシタコロガ、貨物引換證ハ確ニ各驛ニ於テ出シテ居ルト云フコトヲ斷言セラレタノデアリマス、雛形ヲ見セラレ又統計モ示サレテ、決シテ間違ノナイト云フコトヲ言ハレマシタ、ソレ故ニ吾々ハ當局ノ言ヲ信ジテ此點ニハ手ヲ著ケナカッタノデアリマス、唯念ノタメ將來間違ノナイヤウニ諸方面ニ内訓ヲシ、注意ヲ與ヘテ吳レト云フ希望ヲ述ベテ置イタノデアリマス、此外ニモ尙意見ヲ述ベタイ點ハアリマスケレドモ、最初ニ述ベマシタ理由ニ依ッテ、先ヅ是位ニ止メテ置カウト思ヒマス、若シ各種ノ問題ニ就テ必要ガ生ジマシタナラバ、私ヨリモ遙ニ商法ニ明ルイ方モ委員會中ニ居ラレマスカラ、他ノ委員ヨリ述ベラル、コトデアラウト信ジマス

○長島鷲太郎君 唯今富井博士ヨリシテ不同意ノ點ヲ御述ベニナッテ、吾々ニ於キマシテモ本案ニ就テ貴族院ノ御意見ト一致スルコトノ出來ナイヲ甚ダ遺憾ニ存ジマス、要シマスルニ意見ノ異ル點ハ、吾々共ノ考ヘルトコロニ依リマスルト、成ベク現狀ニ急激ノ改革ヲ與ヘスト云フコトガ吾々ノ主眼トスルコトコロデ、是ガ貴族院ト意見ヲ異ニスル點ト考ヘマス、衆議院ニ於キマシテハ其見ルトコロニ依リマシテ修正ヲ加ヘマシタ點モ多クアリマスガ、是モ富井博士ガ言ハル、通り、略、兩院ニ於テ各々修正ノ意見ヲ存スルトコロハ分ッテ居ルコト、考ヘマスカラ、其點ニ就テハ述ベマセウガ、唯今富井博士ノ述ベラレマシタトコロノ第一ノ財産目録ノコト、殊ニ差額ヨリ生ズル利益分配ノ如キ、是モ或ハ一應御尤モノ御意見トハ存ジマスガ、會社ノ財産ヲ鞏固ニスルコト云フ御意見ヨリ見マスレバ或ハ適當ノ修正カモ知レマセウ、併ナガラ今日商業社會ノ實際カラ申シマスレバ、此ノ如キ修正ハヤハリ先程述ベマシタヤウニ、現狀ニ就テ急激ノ改革ヲ與ヘルモノデ、却ッテ是ハ實業社會ニ不安ヲ來ス基トナリハセウカト云フタメニ、此點ハ御同意ガ出來ナイノデア

リマス、第二ノ刑罰規定、是ヲ抑、本案ノ爭點アラウト思ヒマス、吾々共ノ見ルトコロ
デハ是モヤハリ餘リ現狀ニ急激ノ改革ヲ與フルコトヲ望マナイ、或ハ一時ニ起リマシタ會
社ノ破綻等カラ見マスレバ、斯様ナ規定ヲ設ケルコトモ必要ナル、或ハ我國ニ此改正
案ガ初メ出タノデハナイ、外國ニ於テモ立法例ガアルヤニ承知シテ居リマスレドモ、併ナ
ガラ縱令斯様ナ刑罰制裁ヲ設ケルノ必要アリト致シマシタコトガ、尙少シク是ハ相互
保險會社ノヤウナモノニ對シテノ制裁規定デモ同一ニ規定スル、其際ニ於テ斯様ナ規
定ヲ設ケテモ遲クハナイ、殊ニ私ハ商法ノ特別委員ト致シマシテ、此點ニ付テ政府委員
ニ問フタノデアリマスガ、今回ノ商法案ヲ見マスル所始、唯今ノ商會社ニ準ジラレタモノ
ガ、今度ハ此改正商法ニ據テ所謂純然タル商會社ト見テ、サウシテ此改正案ニ規定
シタル刑罰ヲ科スルコトニナツテ居リマス、茲ニツドウシテモ都合ノ付カヌモノガ一ツ
アルノデアリマス、即チ保險業法ニ於テ保險ノ營業モノハ、株式會社及相互保險ト
云フコトニナツテ居リマシテ、株式組織ノ保險會社ハ固ヨリ商法ノ罰則規定ヲ適用
シテ居リマス、而シテ此度ノ商法改正案通過ノ後ハ、此改正案ニ規定シタル刑罰ノ制裁
ヲ受ケルコトニナツテ居リマス、之ニ反シ相互組織ノ保險會社ハ、ヤハリ營利會社デアリ
マスガ、是ハ組織議決等ニ付キマシテハ總テ商會社ノ規定ヲ準用サレテ居リマス、而
シテ其不正ノ公告シタルトキトカ、不正ノ通知シタルトキデアルトカ云フヤウナ場合ニハ、現
行商法中ニ規定シテ居ルト同様ナル規定ヲ、相互保險業法ニ設ケテアルノデアリマス、
然ルニ此改正案ニ據リマシテ株式會社ニ刑罰ヲ科スルコトニナリマスルト、唯今マデ同
一ノ科セラレタル同一ノ行為ニ付テ、同一ノ刑罰ヲ科セラレタ相互保險ニ付テ鈞合ガ
付カヌデアリマス、一ハ同一ノ行為ニ付テ過料ヲ科セラレ、株式組織ノモノニ付キマシテ
ハ今回ノ改正商法ニ據テ、刑罰ヲ科セラル、ト云フコトニナリマスルカト云フコトヲ政府
委員ニ問フタコトガ、是ハイヅレ改正ヲシナケレバナラヌト云フ政府委員ノ御答辯デアリ
マシタガ、斯様ニ致シテ見マスルトヤハリ斯ウ云フヤウナモノヲ同一ニ律スルニハ、ヤハリ
保險業法ノ改正ガ同時ニアツテ然レベキカト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ
譯テ、總テノ調和ヲ得セシメタメニハ、商法改正案ダケニ直ニ刑罰ノ制裁ヲ設ケルト云
フコトハ少シク突飛ナル改正案デハナイカト云フ點ガ私共ノ刑罰制裁ヲ此改正案ニ設ケ
ルコトニ同意ヲ致ス點デアリマス、ソレカラ次ニ運送取扱人ヲヤハリ運送人ト同一ニ視テ、
貨物引換證ヲ作ラセルト云フ點モ御不同意デアリマスガ、是モ富井博士カラ續々御
述ニナリマシタヤウナコトデアツテ、ヤハリ實際ノ取引ニ於キマシテハ、運送人ニアラズシテ
運送取扱業者ガ、貨物取引證ヲ作成スル場合モ無イコトハナイノデアリマス、斯ウ云フ事
實ヲ認メタノデアリマス、吾々共ノ考ヘマスルヤウニ、現ニ行ハレテ居ルトコロノ商法ガ出
來マシテ、以後、商習慣ノ上ニイロ／＼發達シタモノガアルヤウニ見受ケテ居ルノデアリ
マス、或ハ白紙委任狀付ノ株式證券ヲ無記名證券同様ニ認メラレテ居リマスルシ、又
貴族院ニ於テ御修正ナリマシテ、吾々共贊成致シテ居リマスルコトノ所謂倉荷證券ノ如
キ、一枚證券ノ交付トカ、斯ウ云フヤウナ商法ノ法文テ極メテ以外ニ於テ、自然商習
慣ノ上ニ於テ當業者ガ實際行ヒ來リタルモノガアルマス、此運送取扱人ガ貨物引換證ヲ
發行スルコトモヤハリ左様ナ慣習ガ行ハレルト認メタ、メニ、衆議院ニ於テハ斯様ニ
修正致シタ譯デアリマス、然レバ御再考ヲ仰イデ、成ベク此商法改正案ニ付キマシテ

衆議院ノ意見ヲ容ラレンコトヲ希望致シマス
○法學博士花井卓藏君 本員ハ本員一個ノ意見トシテハ別ニ有スルトコロノ議論ハ
ゴザイマスガ、衆議院ノ院議ヲ重シタル上ニ於キマシテ、唯今長島氏ノ述ベラレシコロ
ノ如ク其總テヲ維持セント欲スルモノデゴザイマスルガ、富井博士ノ御演說ノ中ニゴザイマ
シタ御言葉ニ對シマシテ、參考ノタメニ伺フデ置キタイ點ガアルノデアリマス、即チ罰則規
定ニ關スル點ニ於テ、第二百六十一條ノ規定ハ立法上其含ム所ノ範圍事項トシテ餘
リニ茫漠ニ失シテ居ル、是ハ具體的ノ事實ヲ法文ノ上ニ現ハスト云フコトハ或ハ穩當デ
アルカモ知レヌト、斯ウ云フコトノ御演說ガアリマシタ、即チ二百六十一條ノ規定ノ不
完全ヲ御認メニナツタ趣旨ト解シテ居ルノデアリマス、果シテ然リト致シマシタラバ、上
院諸公ノ御趣意トスル其成案ヲ承ルコトガ出來ルノデゴザイマセウカ、是ガ一點デアリマ
ス、次ハ刑罰ノ頗ル重キニ失シテ居ルト云フコトヲ御認メニナリタルガ如キ御意見モアツタ
ヤウデアリマス、即チ刑ヲ輕クスルト云フコトニ付テハ考量ノ餘地アルガ如キ意味ノ御演
說ナリト承リマシタ、果シテ然リト致シマスレバ二百六十一條其他ノ條文ニ於テ、極メテ
重キ刑罰規定ヲナシテ居ルト云フコトモ、御認メニナツタモノト解スルコトガ出來ヤウト思
フノデアリマス、若シ左様ナ次第デゴザイマシタラバ互譲ノ上ニ於キマシテ、體刑ノ全部
ヲ削リテ之ヲ罰金刑ニ止ムルト云フ點ニマデ御讓歩ヲ下サルコトガ出來ルノデアリマセウ
カ、若シ又體刑ハ存セシケレバナラヌト云フコトノ御趣意ナリト致シマシタラバ、最下限
ハ——最低限ハドノ邊ノ刑期ニ相成ルノデゴザイマセウカ、是ガ第二點デアリマス、此二
ツノ點ヲ伺ヒマシテ尙且二百六十一條ノ第二項ニゴザイマスル「前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰
ス」ト云フ點ヲ御削リニナルト云フコトニ御同意下サルコトガ出來ルデアリマセウカ否ヤ、是
ガ三點デアリマス
○法學博士富井政章君 私ノ述べ方ガ明瞭デナカッタカモ知レマセヌ、或ハ其タメニ花
井君ノ誤解ヲ招イダカモ知レヌト思フノデアリマス、吾々ハ決シテ此罰則ガ不完全デアルト
認メテ居ナイノデアリマス、犯罪ノ範圍モ亦刑ノ分量モ是デ宜シイト思フテ、即チ原案デ
宜シイト思フテソレニ贊成致シテ居ルノデアリマス、唯法條問題トシテ或ハ此書方ガ廣
過ギルトモ見得ルカトモ思ヒマスル、故ニ若シサウ云フ點ヨリシテ幾ラカ範圍ヲ狹メル、或
ハ刑ヲ輕クスルトカ云フコトデアレバ、決シテ吾々ニハソレヲ宜イト思フテ居ルノデアリマセ
ヌ、初メカラソレガ宜イト思フテ居ルノデアリマセヌケレドモ、政章スルコトガ出來ヤウカト
思フノデアリマス、ソナラバドウ云フ點ニマデ讓レルカト云フコトニ對シテハ、マダ吾々ノ
間ニ御目ニ懸ケ得ルヤウナ纏マッタ案ナドガ出來テ居ルノデアリマセヌ、唯個人的ニ銘々
考ヘテ居ルコトハ、ハ思ヒマスルケレドモ、サウ云フ點ニ付テ纏マッタ意見ガアルト云フ譯デハ
アリマセヌ、唯私一己ノ意見トシテ申上ケレバ、總テ體刑ヲ削ツテ罰金ニシテ宜シイト云
フコトハ、到底吾々ノ同意スルコトハ出來ナイノデアラウト思ヒマス、體刑ヲ科スベキ場合
ヲ狹メル、或ハ明瞭ニスルコトカ云フヤウナコトニ付テハ、大イニ攻究ノ餘地ガアルト思フノデア
リマス、ケレドモ全ク罰金ダケニシテシマフト云フコトハ、到底御同意ノ出來ナイコトデア
ラウト思ヒマス、ソナラドウ云フ程度ニマデ改正スルカト云フコトニ付テハ、唯今申上ゲマ
シタ通り、銘々頭ヲ痛メテ居ルコトハ、ハ思ヒマスレドモ、貴族院側ノ成案ト云フヤウナモ
ノハマダ無イノデアリマス

列記致シマシタ、其第ハ會社ノ設立若クハ資本ノ増加又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ

條ノ結果ヲ行ケルトモヘテ居リマスカ……

○法學博士鳩山和夫君 廣澤伯爵ノ御意見ノ通り、附則十九條ハ削ルコトニナッテ居ルノヲ復活ニナル譯デアリマス

○片岡直溫君 唯今小委員會ニ於テ御協議濟ノ御報告ニ對シマシテハ多少意見モゴザイマスルガ、最早時期切迫デモゴザイマスルシ、段々御懇談ノ末ト考ヘマスカラ全然贊成ヲ表シマス

○法學博士花井卓藏君 本員モ本員一個ノ意見ト致シマシテハ多少論ジテ見タイ點モゴザイマスガ、大體ニ於テ其商法ヲ迎フルコトヲ欲シマスルガ故ニ、暫ク交渉委員ノ說ヲ請取ル積リデアリマス

○伯爵廣澤金次郎君 本員モ貴族院ノ方ノ側ト致シマシテ、唯今ノ成案ニハ贊成致シマスガ、實ハ此際申上ゲテ置キタイト思ヒマスルノハ、大ニ貴族院側ノ方カラ讓歩ヲ致シマシタ財産目錄ノ點ニ付テハ、貴族院トシテハ實ハ政府修正案ノ如キ箇條ガ最モ今日ノ時世ニ必要ナリト實ハ認メテ居ッタデアリマス、併ナガラ是等ハ衆議院ノ委員諸君ノ御說モアリ、即チ營業稅法所得稅法ノ關係モアリ、已ムヲ得ズソレヲ今日ハ削ルコトニ贊成ヲ致シタデアリマス、尙貴族院側ト致シ又個人トシテモイロ／＼述ベタイコトガアリマスガ、大體ニ於テ本案ノ成立ハ最モ必要ナリト認メタル妥協ノ結果デアルカラ、玆ニ贊成致シマス

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○村田保君 モウ御採決ヲ願ヒマス

○議長(男爵波多野敬直君) 御異議ガナイト認メマスカラ採決致シマス

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(男爵波多野敬直君) ソレデハ全會一致ヲ以テ成案ノ通り決定致シマス、是ニテ兩院協議會ヲ閉デマス

午後七時五十一分散會